

【介護から自分を知る①】

★

介護の現実を考え、どう生活していくのかを考え、現実の状況、これからの予測も考えていかに介護に向かって生活していくのかを整理したいと思います。

1 現 状

高齢者社会を向かえた現在では、介護は誰でもが体験せざるを得ない時代であり、介護される方か、介護する方か、またどちらも経験しなければならない状況です。

核家族化の時代を過ごしている現在は、昭和40年代までの家族形態とは異なって夫婦2人世帯が多くなっております。特に団塊の世代がその代表的な特徴の家庭を形成してきたものと思われま

す。子どもを考えても二人が多い状態ですし、生まれ育った地域での家庭生活を送っている人は少ないと思います。

介護保険制度ができた2000年は、団塊の世代が50を少し超えたところであり、その親が80歳前後だったと思います。現在はその後10年経って60歳になり、年金生活に入ろうとしている状況ですし、親も90歳前後になっておりますから、これからの10年間のことを考える必要があると思います。

50代で介護の経験をされた方も多くあったと思いますが、職業的には現役世代であり、健康管理もされていた状況です。ただし、妻の方への負担は大きかったと推測されますが、その家庭においてルールづくりがなされて、介護の期間、状態、環境に対応していったものと思います。

戦争体験者であり、貧しい時代、動きの大きかった時代を生きてきた世代の人は、高齢者世帯であっても、二人で子どもたちに迷惑をあまりかけないように過ごそうと最後まで努力された人が多くありました。ただし、一人になってからの生活は、子どもとの関係で環境が大きく変わっているのが現状です。

もともと単身の人、なにかの理由で一人生活をしている人も、昭和40年代までより多く見ることが現実です。

生活をするための環境、収入、ひととの関わり、経験などが介護する方、される方に現実でてくることとなります。

※ 次回は高齢者世帯の介護について考えてみたいと思います。